



Title	大阪大学との協働
Author(s)	花立, 都世司
Citation	未来共生学. 2018, 5, p. 315-317
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/68223
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪大学との協働

大阪市港区役所協働まちづくり推進課 教育担当課長 **花立都世司**

公共サービス・ラーニング（以下「SL」）のようにある程度の回数で学生を受入れることは、新たに業務が増えることに対してそれに見合う成果を出せるのか、また受け入れた学生にとって有益な内容とできるかなど、始めるにあたって準備不足な点がありました。しかし、以前からよく知っている未来共生プログラム特任准教授 榎井縁さんを通しての依頼だったので、榎井さんからの依頼ならなんとかなるだろうという安心感や、大学との協働には大きな可能性があることから、まずは受入れをしてみようということになりました。

区役所としての受入れの成果が必要なことから、最初のSLの受入れにあたっては区の課題となっていることについての調査協力などのメニューを用意しましたが、来ていただいた藪中孝太郎さんが社会問題についての意識が高いだけでなく、既に自身でも取組んでおられたことから、こちらがあらかじめ用意したメニューより、受入れ学生のそのような資質を活かした内容とした方がよりよい内容とできるのは明らかでした。また、SLとプロジェクト・ラーニング（PL）はそれぞれ6ヶ月という短い期間であり特にPLでプロジェクトを実施するには期間が十分でないことから、SLの2人目からの受入れでは、受入れ学生の関心のある問題につて、PLを前倒しする形で実施していきました。具体的にはSLの2人目の木場安莉沙さんについては、性の多様性についての人権啓発パネルの作成と性の多様性についての全2回の講座、3人目の伊藤駿さんについては『港区版 家庭学習の手引き』の概要版の作成をそれぞれ受け入れ学生と協働実施しました。

PLについては、SLの受入れ学生と区役所でプロジェクトのテーマ設定をし、それに賛同する学生をSLの港区受入れ学生が募り、PLのメンバーであらためてそれぞれのテーマに沿って企画案をつくるという形で実施したのが、1回目の「港区でこどもの学びの場づくりを目指して、そのボランティア人材を確保するための研修会を実施し、研修会の修了生とともに月1回程度のこどもの学びの場をつくっていく」プロジェクト、2回目の「性の多様

性を含む人権情報等、とりわけ多言語情報等の配布をおこなうダイバーシティ・ネットワーカー事業の構築に向けた」プロジェクトです。また、3回目のPLについては、テーマ設定した上でのプロジェクトメンバー集めができなかったことから、PLメンバーと区役所が何度か話し合った結果、それぞれが専門を活かして関与してもらえそうなテーマとして区役所からディスレクシアをテーマにすることを提案させていただき、その講演会を協働して実施しました。

PLとしての学生のかかわりは、それぞれの講座の実施まででしたが、区役所は、PLによってつくられた貴重なとっかかりを足場に事業化に取組みました。まず、講座修了後の参加者の集まりを、こどもの居場所づくりについては毎月1回計6回、ダイバーシティ・ネットワーカーについては毎月1回計3回もちました。そして、前者からは講座参加者がボランティアとしてかかわるこどもの居場所「港区サードプレイス事業（こどもの居場所づくり）『エルカフェ』」、後者からは講座参加者の当事者およびアライが中心メンバーとなり多様な人々が住みやすい、活躍できるまちづくりに向け啓発事業を区役所と協働して企画し実施する集まり「港区LGBTアライアンス『レインボーカフェ 3710（みなと）』」を事業化しました。ディスレクシアについては、現時点では事業化ができていませんが、今後、ディスレクシアのこども対象の寺子屋を実現できればと考えています。

また、それぞれの取組みは単独の事業にとどめず、施策のパッケージ化を目指して発展させました。「エルカフェ」については、次の港区独自の不登校児童生徒の支援施策のパッケージの重要な部分を担っています。パッケージの内容は、区専属のスクールソーシャルワーカーの配置、小学校のスクールカウンセラーの充実、小中学校のスクールカウンセラーを中学校区で同一人にする（モデル校区で実施中。今後、全区展開）、不登校児童生徒支援の有償ボランティアの学校への配置、「エルカフェ」の開催、臨床心理士による「土曜教育相談」の開設、不登校のこどもの親の集まり「サロンde ゆるり」（エルカフェのボランティアスタッフによってつくられた「こどもたちの笑顔をつなぐ会」主催）との連携です。これらの事業はたとえば、不登校のこどもの保護者が「サロンde ゆるり」や「土曜教育相談」に訪れ、その子ども（不登校のこどもやその兄弟姉妹）が「エルカフェ」に参加するというように相互

に連携して実施しています。

「レインボーカフェ 3710」についても、ろう者の参加者がいることから手話のコミュニティ通訳（有償ボランティアの手話通訳）を新たに区独自につくったことや、人権啓発活動についての助成金メニューを新たに作り、レインボーカフェ 3710の参加者のグループ「レインボーみなと」の結成を促し、その自立化への支援を行なっているほか、「レインボーみなりんプロジェクト」という区役所が率先して性の多様性についての取組みを行い、それを地域に広めるという取組みを展開しています。「レインボーみなりんプロジェクト」の第1弾は、多目的トイレの設置を奨励し、トランスジェンダーの方が利用しやすくするため、LGBTの象徴のレインボーをあしらったステッカーをまず港区役所に掲示し、同様に多目的トイレにそのステッカーを掲示していただける企業・事業所を募集するというものです。第2弾は、性の多様性について、申請書の不要な性別欄の見直し等の業務の改善を行なうとともに性の多様性についての正しい理解と適切な窓口対応ができるよう職員研修をおこない、レインボーフラッグを窓口を設置するという取組みです。現在、区役所職員対象の性の多様性についての研修会を実施しているところで、研修の効果をアンケート等で測定し、一定の理解水準に達した事が確認できれば、窓口にレインボーフラッグを掲示し、同様な取組みをしていただける区内の企業・事業所を募集していくこととしています。

社会の様々な課題について、担当としては取組みたいと考えていても、新たな取組みを始めるにあたっては、しっかりと位置づけをし、組織的な決定を経なくては取組めないことから、大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラムとの協働により、学生発ということで、これらの課題へ取組むきっかけをいただけたことはとても有り難いことでした。また、大学との協働ということで区民への発信もしやすく、特に大学生が関与していることで、市民協働の事業をつくるにあたっての核となる人材をこれまで区役所の事業に参加してもらえなかった層も含めて発掘ができたことにも大きく貢献していただいたと思っています。最後に、柔軟できめ細かいサポートをしていただきました、大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラムの教員の皆様に改めて感謝申し上げます。